

令和 2 年度 地域活性化支援事業にかかる受託者の支援状況等

1 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の実績等

・事業開始時に、市民協働課及びまちセンで各地域の現状及び課題についての情報共有及び意見交換を行い、年間支援計画を作成した。適宜スーパーバイザーからのアドバイスを得ながらまとめた。これらの内容は、地域カルテ反映し、地域担当職員にも配付することで地域の現状及び課題を共有できている。

・地活協運営委員を含む此花区在勤在住の 12 名に地域活動のニーズ調査のためのヒアリングを実施し、地域活動に関わるきっかけや地域に関する話を伺った。また、事業実施時に地域に出向き、従事者から地域の現状やニーズを伺うよう務めた。いずれも直接話を伺うことでアンケートでは知りえなかった意見や情報を引き出すことができた。

・区の防災ワークショップや打合せに適宜同席し、区役所と地域の間には、意見のフォローやファシリテーション、会議のまとめを作成した。地域だけでなく区職員への支援にも繋がっている。また、コロナ禍により、行政の避難所開設の状況が変更となったことを受け、伝法地域では防災ワークショップでの意見交換で「住民アンケートを実施したい」という要望が出てきた。そこで、まちセンではアンケート作成に向け、アンケート内容作成のためのワークショップでのファシリテーション及びアンケート原稿案の作成支援を行った。また、課題となっていたアンケート配布に向けたアンケート用紙の封入や仕分け作業を区内の福祉事業所への委託を提案し、委託に向けた支援を行った。配付アンケートには、防災をテーマにした 4 コマ漫画を絵が得意な町会長が担い、添付した。それにより、アンケートだけでなく防災への関心を持つきっかけにつながり、また約 1500 件の回答へとつながった。今後、アンケート結果の分析など地域の防災訓練に活かす資料づくりに向けた支援を行っていく。

・此花区役所の地域担当職員制の効果を発揮するため、地域担当職員研修を実施した。地域の方々にはコミュニケーションを取ってもらうための座学「人と話をするためのテクニック」と地域活動従事者へのインタビューを行うワークを実施した。今回初めて、地活協従事者 3 名をゲスト講師に迎え、グループでインタビューを行った。従事者から直接話を聞くことで、地域活動の現状を理解する機会にも繋がった。参加した地域担当制の職員からの「地域の方から直接、話を聞くことができて良かった」「1 人の方が多くの活動を担っていることを初めて知った」など地域の実情を知る機会となった感想も得られている。

2 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の実績等

・島屋地域では昨年度実施した「しまやエンジョイカーニバル」での地域の繋がりがコロナ禍によって途絶えてしまうことを危惧され、「しまやエンジョイミニカーニバル」を企画実施された。事業実施に当たっては、まちセン職員が企画会議に出席し、他区での活動情報や新型コロナウイルス対策の必要物品への情報提供、広報などの相談に応じ、適宜支援した。まちセンからの支援により、新たな地域活動の形への意識づくりもできた。

・次年度事業実施に向けた部会や団体の企画会議に向けた支援として、他区や他都市で実施している事業の情報提供を行った。また、3 年前から実施している「地域活動勉強会コノまちゼミ」は、ゼミナールのように少人数で双方向の活発な交流を行うことでスキルアップができる勉強会を目指している。今年度は、「これからの地域

活動 子ども向け事業編」をテーマ設定し、東成区北中道地活協の従事者を講師に迎えた。コロナ禍を鑑みてオンライン参加も可能とし、現地参加 5 名に加え、3 名のオンライン参加があった。中には地域活動に関わっていないが、まちセンの SNS を見て参加された方もおられた。当日は、東成区北中道地活協から 2 名の従事者が来られ、事例発表のほか、コロナ禍から変化していく地域活動の考え方や広報活動についての意見交換を行った。参加者アンケートでは、参加者の約68%がこれからも「ぜひ参加したい」という回答が得られ、自由記述では「今後の活動への励みに繋がった」「広報について改めて考える機会になった」という回答があった。また、区や地域をこえた参加者同士の交流を持つことができた。

・地域活動マニュアル「地域活動虎の巻 このまちノート」を発行した。地域活動従事者からのアンケート等でニーズを拾い出した内容も反映しており、地域活動の成り立ちから便利なツール等の紹介、用語集などを、地域活動初心者だけでなく、以前から地域活動に携わっている人にも役立つ情報を掲載している。冊子化するだけでなく、まちセンホームページからダウンロードすることもできるので、手軽に読むことができるようにしている。実際に手に取った方からは「成り立ちなど初めての人にとってもわかりやすい」「わかりやすく勉強になる」という意見があり、今後の地域活動支援でも活用していきたい。

3 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の実績等

・コロナ禍の中、地域福祉従事者からのふれあい喫茶をはじめとする地域見守り事業再開に向け、他区や他地域の情報を知りたいという相談から「ふれあい喫茶従事者交流会」を企画実施した。区保健師や区社協、まちセンからの情報提供の他、参加者同士で意見交換を行い、各自のふれあい喫茶や地域福祉事業への意見を伺うことができた。その後、地域内での話し合いからふれあい喫茶の再開やデモンストレーションを実施するなど、新たなふれあい喫茶の手法を模索しながら動き始めている地域が出てきている。

・コロナ禍により、一部の地域で運営委員会の議決を書面議決で実施する地域が出てきた。まちセンでは、資料・議事録のひな形データの提供や書類作成のポイント説明など、書面議決がスムーズに実施できるように支援を行った。地活協規約や要綱に沿って、書面でも予算・決算の議決を進めることができています。

・会計説明会を令和 2 年 8 月実施し、会計マニュアル「会計ノート」の体裁を改良し、よりコンパクトで見やすいものにして配布した。説明会では、日常会計処理の中でもケアレスミスが多い領収証についての説明を重点的に行うことで、地活協の担当者が会計処理に苦慮しないよう支援を充実させた。また、総務本会計担当者向け説明会を別途実施し、会計の取りまとめの流れなどについての説明や意見交換の場を設け、地域の現状を把握した。役割別に行うことで、それぞれの担い手が行うべきことを認識いただく機会にもつながっている。

4 「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の実績等

・地域活動マニュアル「地域活動虎の巻 このまちノート」を発行した。地域活動従事者からのアンケート等でニーズを拾い出した内容も反映しており、地域活動の成り立ちから便利なツール等の紹介、用語集などを、地域活動初心者だけでなく、以前から地域活動に携わっている人にも役立つ情報を掲載している。冊子化するだけでな

く、まちセンホームページからダウンロードすることもできるので、手軽に読むことができるようにしている。実際に手に取った方からは「成り立ちなど初めての人にとってもわかりやすい」「わかりやすく勉強になる」という意見があり、今後の地域活動支援でも活用していきたい。

・3年前から実施している「地域活動勉強会コノまちゼミ」は、セミナーのように少人数で双方向の活発な交流を行うことでスキルアップができる勉強会を目指している。今年度は、「これからの地域活動 子ども向け事業編」をテーマ設定し、東成区北中道地活協の従事者を講師に迎えた。コロナ禍を鑑みてオンライン参加も可能とし、現地参加5名に加え、3名のオンライン参加があった。中には地域活動に関わっていないが、まちセンのSNSを見て参加された方もおられた。当日は、東成区北中道地活協から2名の従事者が来られ、事例発表のほか、コロナ禍から変化していく地域活動の考え方や広報活動についての意見交換を行った。参加者アンケートでは、参加者の約68%がこれからも「ぜひ参加したい」という回答が得られ、自由記述では「今後の活動への励みに繋がった」「広報について改めて考える機会になった」という回答があった。また、区や地域をこえた参加者同士の交流を持つことができた。

5 来年度に向けた新たな取り組みやチャレンジ事項等

・コロナ禍により、事業実施していない期間というのは、事業の見直しを行う良い機会でもあった。しかし、見直しに向けたはたらきかけが行い切れず、事業が停滞したままになっている地域がいくつかあったので、オンラインやSNSの活用なども含め、次年度は停滞したままにならないようなはたらきかけ及び支援を行っていきたい。

・今年度作成した「地域活動虎の巻このまちノート」を活用した企画及び支援や「コノまちゼミ」で試みたオンライン企画が発展させられるように検討していきたい。